

Monthly Report

2024年6月号

特集

雨天時の運転中の歩行者見落としを防ごう

雨の降る中で運転する機会が増える梅雨の季節。車の窓やサイドミラーに雨粒が付着したり、窓が曇ったりすると周囲の状況が見えにくくなることがあります。そのような中、歩行者の存在を見落とししまうと、重大な事故を招くリスクが高まります。

今月は、視界が悪くなる雨天時の運転において、歩行者の見落としを防ぐにはどうすればよいかを考えます。



1. 雨天時の事故発生傾向とその要因

統計によると、晴天時と雨天時の死亡事故件数を類型別割合で比べた場合、雨天時のほうが「人対車両」の割合が大きくなっていることがわかります。

なぜ雨天時に「人対車両」の事故が発生しやすくなるのでしょうか。車両の走行環境と歩行者の行動特性に分けて考えると、それぞれ以下のような要因が挙げられます。

【車両の走行環境】

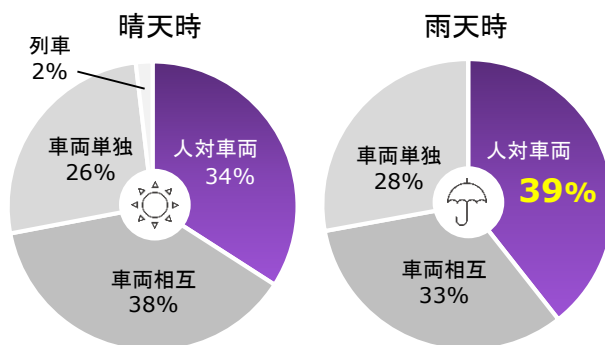
- 路面が濡れてスリップする
- 視界不良になる
- 特に豪雨時などは雨音で周りの音が遮られる

【歩行者の行動特性】

- 傘で視界が遮られ、車の接近に気づきにくくなる
- 水たまりを避けたり、傘を広げた歩行者どうしがすれ違ったりするとき、車道にはみ出ることがある

歩行者の行動が不安全になるのであれば、車両の運転者は歩行者をより確実に認知しなければなりません。次項では雨天時の視界不良と歩行者の見落としについて掘り下げて考えます。

事故類型別死亡事故割合（令和5年、天候別集計）



出典：公益財団法人交通事故総合分析センター
令和5年版統計データより当社作成



2. 雨天時の視界不良と歩行者の見落としについて

雨天時の直接的な視界不良要因として、**フロントガラスやサイドミラーなどに付着した雨粒**が挙げられます。

また眼の特性により、雨天時は以下のような見え方にも影響します。

- 暗い色の傘やレインコートが目立たなくなる
(晴天時より暗いため、**眼の色を感じる細胞の働きが低下し、色の違いを識別しづらく**します)
- 暗い環境では**ピントが合わせにくくなる**
- 夜間時、ライトの光や濡れた路面による**光の反射のまぶしさ**が視界不良につながる

これら悪条件が重なると歩行者を見落とすリスクが高まることとなります。



3. 雨天時の歩行者見落としを防ぐには

【良好な視界を確保する】

運行前にワイパーゴムの切れ・ひび割れを点検し、デフロスタやデフォッグ(曇り除去装置)の正常動作も確認しましょう。窓についた油膜やミラーの水垢も除去しておくといいでしょう。

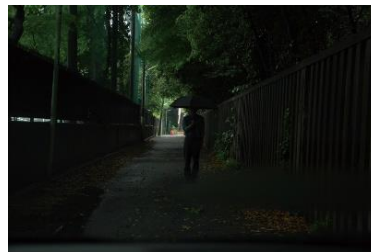
【眼の特性を理解する】

周囲が暗いときは歩行者が見えにくくなります。よく見えるようにライトを点灯しましょう。歩行者からみても、ライト点灯により車の接近に気付きやすくなります。

【雨の日の歩行者の行動に注意する】

雨天時に不安全になりがちな歩行者の行動に留意し、危険予測運転を心がけましょう。

<ライト点灯なし>



<ライト点灯あり>



写真資料: ©企業開発センター 安全運転フォトニュース2018年6月号より



損害保険ジャパン株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
 <公式ウェブサイト> <https://www.sompo-japan.co.jp>

SOMPOリスクマネジメント株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-24-1
 <公式ウェブサイト> <https://www.sompo-rc.co.jp>

お問い合わせ先

有限会社やまもと総合保険事務所

〒702-8006

岡山市中区藤崎394

電話: 086-276-6140

メール: big1-y@galaxy.ocn.ne.jp